2023年度業務実績報告書

提出日 2024 年 1 月 15 日

- 1. 職名・氏名 教授 西 弘嗣
- 2. 学位 学位 理学博士、専門分野 地質学、授与機関 九州大学、授与年 1987
- 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

地球生命史学(2 单位, $1\sim3$ 年), 地球環境史学(2 单位, $M1\sim2$ 年), 古生物学専攻演習 I(2 单位, M1 年), 古生物学専攻演習 II(2 单位, M2), 古生物学専攻実験 I(2 单位, M1), 古生物学専攻実験 II(2 单位, II(2 中位, II(

② 内容・ねらい

生物進化と地球環境の関係を理解し、恐竜がどのような進化をしてきたか、またどのような環境に 生息していたかを理解する.

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ビジュアルに理解できるように講義を工夫し、古生物だけでなく地質や古海洋などの分野も取り入れて、環境との関係を総合的に理解できるように工夫している.

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

[0本]

- ② 学術論文(査読あり)
- (1) Soki Hattori, Masateru Shibata, Soichiro Kawabe, Takuya Imai, Hiroshi Nishi, Yoichi Azuma (2023): New theropod dinosaur from the Lower Cretaceous of Japan provides critical implications for the early evolution of ornithomimosaurs. Scientific Reports 13:13842.

【1本】

③ その他論文(査読なし) なし

【0本】

- ④ 学会発表等
- 1) Terrestrial and marine molecular fossil fingerprints of the Yezo Group record the Late Cretaceous paleoenvironmental evolution in the NW Pacific Margin. H. Nakamura et al., 2nd Asian Palaeontological Congress, August 3-7th 2023.
- 2) Turonian to Santonian paleovegetation changes reconstructed from palynological records of the Haborogawa Formation, Yezo Group, Hokkaido, Japan. Hyasaka et al., 2nd Asian Palaeontological Congress, August 3-7th 2023.
- 3) 白糠丘陵地域に露出する根室層群の白亜紀-古第三紀境界付近の層序. 髙嶋礼詩ほか,日本地球惑星化学連合 2023 年大会, 2023 年 5 月 21-26 日.
- 4) Biotic response of deep-sea benthic foraminifera at ODP Site 744 (Kerguelen Plateau) in the Southern Ocean during the early Oligocene. TAKATA Hiroyuki et al., FORAMS 2023, June $26^{th}-30^{th}$ 2023.
- 5) Faunal transition of benthic foraminifera across the Eocene- Oligocene transition at ODP Site 744 (Kerguelen Plateau) in the Southern Ocean. TAKATA Hiroyuki et al., FORAMS 2023, June $26^{th}-30^{th}$ 2023.
- 6) 福井県立大学恐竜学部(仮称)の創設と温室地球環境研究人材の育成. 地球環境史学会年会、2023年12月3-4日.
- 7) 北海道根室層群の白亜紀/古第三紀境界堆積岩のバイオマーカー分析による古環境復元. 林ほか, 日本地質学会第130年学術大会,2023年9月18日.
- 8) 北海道および北米カリフォルニアにおける白亜紀海洋無酸素事変期の有機分子古植生変動の比較. 池田ほか. 地質学会北海道支部例会2023, 2023年6月17日.

【8 件】

⑤その他の公表実績

【0本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

- (1) 極限温暖化時に生じた森林大崩壊の全容解明(基盤研究B,代表)
- (2) 東アジア初の完全な K/Pg 境界層から探る白亜紀末・大量絶滅における環境変動(基盤 A, 分担)
- (3) 人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成(学際領域領域展開ハブ形成プログラム)

(3)特許等取得

(4)学会活動等

日本学術会議会員(26期),日本古生物学会評議員,日本地質学会理事,地球惑星連合理事

5. 地域・社会貢献活動
福井県立恐竜博物館特別顧問
学術会議シンポジウム開催 (5月 24 日)
放送大学シンポジウム講演(10月2日)
第 66 回中小企業団体福井県大会記念講演(11 月 7 日)
福井生涯学習センター第3回講演(12月3日)
勝山高校探求研究アドバイザー
SSH 生徒研究発表会審査委員

6. 大学運営への参画
(1)補職
恐竜研究所所長
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
創立 30 周年記念シンポジウム講演(10 月 8 日)
(4)その他、自発的活動など